



東京部会(第95回)

日時:	2017年10月14日(土) 15:00-17:30
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 加藤一誠(慶応義塾大学)、岡部ちはる(東京証券取引所)、杉田孝之(千葉県立津田沼高校)、升野伸子(筑波大学附属中)、塙枝里子(都立府中東高校)、高橋勝也(都立武蔵高・中)、代田有紀(都立荻窪高校)、小谷勇人(春日部市立中野中)、落合隆(神奈川県立相模原青陵高校)、金子幹夫(神奈川県立平塚農高初声分校)、後藤洋政(慶応義塾大学)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上12名。

(1) 夏の経済教室の分析を行った。

岡部ちはる氏(東京証券取引所)から、9月に配布した夏の経済教室のアンケートを参加教員の経験年数と参加回数でクロス集計した結果が提示された。参加回数が3回以上の先生と初回の先生との間で評価やニーズの違いが読み取れたが、参加回数が2回の先生のサンプル数が小さく、単純な比較は難しい。しかし、この結果を踏まえて、次年度はアンケートの設計も含め、企画の立案に際し、二つのグループのニーズを考慮した内容や講師の検討が必要であることが指摘された。

(2) 冬の経済教室の準備を行なった。

落合隆先生(相模原青陵高校)から、冬の経済教室のちらしや案内方法に関する補足説明があり、検討が行われた。ちらしは、ネットワークが用意したもののみを案内とすること、全公社研「授業実践研究会」からの案内は、受け取った先生たちが混乱しないような方法をとること、当日の記録は、「授業実践研究会」のこれまでの方式で行い、そのまとめも法教育フォーラムのウェブに掲載することなど、詳細なつめを行なった。

なお、作成した案内ちらしは、東京証券取引所の協力で、全国の中高に配布される予定である。

(3) 実践報告及びその検討を四つ行った。

1) 代田有紀先生(荻窪高校)の「私たちにできる国際協力は何だと思いますか?」の授業案と実践の報告を受け検討を行った。

代田先生の勤務校は、三部制の定時制高校で、授業時間は45分。この実践は国際協力をテーマにした2時間の授業実践であり、地歴も踏まえた政治・経済の学習指導案を基にしている。

授業の流れは、1時間目に、南北問題、南南問題、モノカルチャー経済、地域紛争の特徴や関連をデータや地図から読み取らせ、持続可能な開発の内容を確認する。2時間目にそれを受けて、どのような援助ができるかを、魚をあげる、魚の釣り方を教えるという二つの視点から選択させ、具体的な方法を考えさせるという流れの授業である。特に、「私たちにできる国際協力は何だと思いか?」「国際協力をすることによって持続可能な開発目標のどの目標の解決につながるか?」という課題に対して、それぞれ主張を述べるだけでなく、理由、具体例、自分の意見を書かせてゆく指導をしてゆくことが特色となっている。

検討では、イースタリー、サックス、カーランらの経済学者の知見を踏まえて援助の有効性を理論面から確認することが授業者として必要ではないかという意見が出された。また、援助の視点では、魚を上げると釣り方を教えるだけでなく、釣り竿の作り方を教えるというもあるという指摘がされて、そこから援助の方法、さらには経済発展の条件などの考察ができるのではという意見が出された。また、格差の実際を教室で再現する具体的な方法として、ジュースを教室で格差があるように分配してそこから貧困の原因、その解消方法を考える方法が紹介



された。

2) 小谷勇人先生(春日部市立中野中)から「現代社会の見方・考え方(経済分野)についての一考察」が報告された。

これは、次期学習指導要領で、「分業と交換、希少性など」の概念が経済分野の学習に導入されることに触発された調査と実践報告である。調査では、現行の7社の教科書での「経済活動の意義」「市場経済の基本的な考え方」の記述の調査が報告され、分業と交換、希少性に言及しているのは帝国書院1社であり、機会費用は0であるとのことである。

実践では、経済学習で、すぐに消費生活の学習に入るのではなく、導入として、機会費用と希少性に関するストーリーをもとにした質問をして、その結果を踏まえて機会費用や希少性についての解説をおこなったとの報告があった。その成果として、総合的な学習での「起業(会社をつくってみよう)の取り組み」のなかの生徒の記述が紹介された。生徒のなかには、考え方だけでなく、希少性や機会費用という言葉そのものを書いた者もでて、授業での成果が反映されたとの報告がなされた。

検討では、機会費用の生徒への質問が、機会費用ではなく埋没費用の事例ではないかとの疑問が出された。また、概念をとらえるだけの授業にならないためには、今回のクイズのような方式は有効であり、トレードオフ状況を設定したストーリーのなかで考えさせるようなものを提示することが有効ではないかという指摘も出された。

3) 升野伸子先生(筑波大学附属中)から、中間考査の問題が紹介された。今回は政治分野で、人権や著作権などの権利に関する問題、選挙に関する問題、参議院の性格付けなど工夫された問題が紹介された。また、問題に「不許複製、禁転載」が書かれている理由(塾業者が利用する)なども紹介された。

4) 大塚雅之先生(三国丘高)の「熟議の価値に気づかせる地方自治の単元開発」の授業案が、新井から代理で紹介された。

この授業は、地方の公共政策を考えるための3時間の授業プランで、1時間目に地方自治の概略を押さえた上で、2時間目で模擬地方議会を行ない5つの公共政策について検討する、3時間目に2時間目で検討した公共政策を政党別を選択させることで、自分の意見とは全面的に一致しないケースがある場合どのように合意形成をするかを考えさせ、そのなかで多数決の問題、それに代わる方法の検討などを行なうという流れの授業である。

検討では、5つの政策のなかには比較できないものを比較させているものがあるのではないかと、党議拘束をかけることの意味、ボルダ投票、重視する観点からのウエイト付けの投票の作業の問題など、大塚先生本人に確認したい質問がいくつか出された。今後、部会交流などを通して直接報告があるとありがたいということで終了した。

(4) 今回も、ネットワークの運営に関する検討、授業案の検討など熱心に充実した部会を行なうことができた。ただ二回土曜実施を行なったが、その効果に関しては、もう少し様子を見る必要があるかもしれない。

(記録と文責、新井)

次回の開催予定：11月28日(火)19:00～21:00。会場は慶応義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室。冬の教室、来年三月のシンポジウムの準備、教材の検討など。なお、慶応大学の会場には受付に断らずに直接行ってほしいとの要請がされている。